

臨床談話会を開催

D P P - 4 の症例学ぶ

淡路支部ニュース

2011.7.25
No. 272

兵庫県保険医協会
淡路支部
〒650-0001 淡路市物部三丁目44
松本区院内
☎079-221-0041



十五人が集まり、質疑応答も活発に行われた
(六月四日・洲本市内、2面に感想文)

Let's...

いよいよアナログTVの終焉。以前より私は、わが部屋でのTVは終わりということにしていた。TVが

いいと思うのは天気予報だけ。あわせてラグビー・サッカーの放送くらい。向後は昼間は活字媒体。夜間はラジオとなる。TVの始末は、ただの箱より始末が悪い。

天気予報は画面でそのものズバリ。ラジオで東経何度北緯何度に低気圧、前線は…の報道では時間もかかるし、頭の中で天気図を描くのは難しい。地域別の放送にもそれなりの時間を必要とする。私は天気予報は当たるものと思っている。気象衛星はじめ観測機器が進歩した現

在、それでも当たり外れがあるのは？ 戦争中は天気予報は軍事機密であり、もちろん新聞には載っていない。たゞ(存知のない方も…)。東京オリンピックの開催日をいつにするか、気象庁と検討、前日の雨でヤキモキした話は有名。田舎、特に漁村の故老のその土地の天気予報はほぼ百パーセントの中。天気予報とわれわれの生活との関係は大きいですね。脱線ついでに原爆による台風の進路変更？破壊？の研究もあるとか。

今月はなでしこジャパンの優勝。大相撲の再開。プロ野球の話題(イチローは不振ですね)、まもなく球児の甲子園と、スポーツの夏へ。それよりも菅総理退陣こそレツツですが…。【松本記】

臨床談話会 感想文

淡路支部は六月四日にホテル夢海游淡路島で、臨床談話会「DPP-4への期待と実際」を開催、十五人が参加した。講師は高槻赤十字病院糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長の金子至寿佳先生、座長は菱川内科クリニック(洲本市)の菱川留王先生が務めた。参加者の感想文を紹介する。

インクレチン製剤の重要性を改めて認識

私にとって、金子至寿佳先生の糖尿病に関する淡路での講演は、二回目でした。前回、多数の糖尿病患者さんの臨床経験に基づいたお話で、非常に理路整然としてわかりやすいお話でした。今回も楽しみにして出席しました。

糖尿病の基礎から臨床の

お話で、インクレチン製剤の位置づけから使用方法まで、実際の豊富な経験からの内容で大変わかりやすく興味深いものでした。

金子先生は、五〇〇例近い糖尿病患者さんにインクレチン製剤を使っておられました。なかでも印象に残ったのは、糖尿病が発症した時点で、すでに膵臓のβ細胞の半分は死んでいて、アミロイド蛋白が蓄積しているということ。糖尿病状態での膵臓のβ細胞とα細胞との関係。β細胞の死滅を防止するためのインクレチン製剤の重要性を改めて認識しました。

また、スルホニルウレア剤使用中のインクレチン製剤開始時の注意点、数あるインクレチン製剤のそれぞれの特徴、副作用から使用方法まで細かに説明していただきました。

以上のような内容で、発売間もないインクレチン製剤に関して疑問や不安に思っていたことが解決し、自信を持つことが出来るようになりました。

【洲本市 三木 隆彦】

投稿を募集しています!!

支部ニュースへの投稿を募集しています。日常の診療にかかわることや主張など、テーマは問いません。地域色豊かな話題を淡路の会員の先生方で交流したいと思います。医科・歯科連携のアイデアなど、お寄せください。

【FAX】 078-393-1802

【E-mail】 kusunoki@doc-net.or.jp

淡路支部担当 楠まで

